第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国歴史教育研究協議会

（代表者　南　和男　　会員数　約16,200人）
ＴＥＬ　0422-51-4554

共通テストが３年目を迎えた。一昨年度・昨年度は新テストということで，手探りの中での作問であったと思われるが，２年間の経験を踏まえつつ大学入学共通テスト問題作成方針（以下「問題作成方針」とする）をより反映する作問がなされたものと推察する。本稿では，１の「はじめに」では本試験「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の全般的な概略について，２の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について，３の「総評・まとめ」では総括的な評価，４の「今後の共通テストへの要望」では全体的な要望について述べる。

１　は　じ　め　に

今年度の共通テストの分析を終えてみて，昨年同様問題の内容やレベルともに教科書に準拠しており，日常の授業で対応できる内容になっており，共通テストとして極めて妥当であると考える。出題形式に関しても，設問文だけで答えが導き出せる「基礎的な知識及び技能」に偏った出題を脱却しようという試みが見られることに敬意を表したい。

「思考力・判断力・表現力等」を問う出題は，それ自体では難しいかもしれない。一方で，学習指導要領の地理歴史科の目標は,「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う」とあり,「世界史Ａ」の目標は,「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。また,「世界史Ｂ」は,「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。

今回の問題作成方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が，実際の作問においてどのように反映されているかということについて，大いに期待するところであり，リード文やそれに付属する図表を精読することでしか解けない出題が今後増えていくことによって，知識・理解だけでなく資料活用能力を見る設問も増加し，単なる暗記物に終わらない高等学校世界史の本格的な授業が高校の現場で実現できることを期待している私たちから，共通テストが大学入試問題の一方の頂点に立つべく，更なる御検討をお願いする次第である。

以下，今年度の「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の共通テスト問題について，限られた紙面の中ではあるが，今後の御検討の一助になることを期待して，本協議会の意見と評価を記す。

２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

⑴　「世界史Ａ」について

大問数４題，小問数30問である。昨年より大問数が１題，小問数は１問減った。試験時間は60分で，満点は100点である。学習指導要領の「世界史Ａ」の学習内容や問題作成方針から逸脱したものはなく，全体として標準的な難易度であった。しかし設問内容については，言及する事象や掲載する図絵が，特定の教科書にしか記載・掲載がないものが散見される。「世界史Ａ」という科目の性質を考慮すると，一部の教科書にしか記載がない事項を問うことは平等性を欠く。確かに問題作成方針の出題教科・科目の問題作成の方針において，「教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題〈中略〉などを検討する。」と記されている。しかし，例えば選択肢の一部になっているものでありながら，その正誤を判断するに足る根拠が設問の中になければ妥当であるとは言い難い。来年度以降の問題作成への改善を求める。

出題形式は，文章選択問題が17問（昨年12問），組合せ問題が８問（昨年13問）であった。例年出題があるグラフを用いた問題は本年もあった。地図問題および表を用いた問題の出題はなかった。

知識を問う設問と思考力や判断力を問う設問のバランスも良く，単純な一問一答形式の設問は少なかった。昨年同様，二人以上の人物による対話文からの出題や文章と資料を組み合わせての出題も多くあり，工夫された設問があったことは評価できる。問題作成方針において「授業において生徒が学習する場面や，社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面，資料やデータ等を基に考慮する場面など，学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する」ことが掲げられており，方針に沿った出題傾向であった。かつ高等学校における授業改善を求めるものでもある。ただ一方で，思考力・判断力を問う設問ではあるが，実際は文章の読解力に偏っているものもあり，毎年のことではあるが，知識を応用した上で思考力・判断力を要する設問作成の難しさが伺えた。

出題分野については，近代以降を中心として，近代史・現代史・戦後史が同じ割合で出題された。学習指導要領において，「世界史Ａ」は近現代史を中心とする世界の歴史を取り扱うことが前提となっていることから妥当であるといえる。また，本年は日本史の知識と関連付けた設問が３問あった。この点も学習指導要領において，世界の歴史を日本の歴史と関連付けながら理解させるという目標に合致した出題となっている。全体として政治史が中心であるが，文化史・社会経済史についての設問もあり，偏りはなく妥当な問題配分であった。ただ文化史については，設問中に掲載されている資料を各社の出版する教科書に掲載・記載のあるものを出題するなどの配慮を願いたい。地域についてみると，本年は南アジアや東南アジアなどからも出題があり，全体的にアジア史のからの出題が昨年より増えた。その中で，年代が比較的近い歴史的事象の正誤判断があり，より丁寧な学習と正確な知識を求める設問もあった。

第１問　史跡から読み解く世界史

Ａはフランスにあるペール=ラシェーズ墓地にある野中元右衛門の墓について

問１　ナポレオン３世治世中におけるフランスの政策について。リード文の内容から，空欄アがナポレオン３世であることを判断させるものであり，基本的な内容である。

問２　アロー戦争（第二次アヘン戦争）についての正誤を問うもの。基本的な内容である。

問３　野中元右衛門がパリ万博に関わった理由と，ルノワールの作品との正誤の組合せである。同時代の日本史と世界史の歴史的事象を結び付けて学習していることを求めているが，知識ではなく，対話文の読解力を問うている。ルノワールとその作品である「ムーラン=ド=ラ=ギャレット」については掲載されていない教科書は一社のみ。誤答となるレンブラントの「夜警」についても。よって正誤を判断することは困難であり，設問の設定が妥当ではない。

Ｂは韓国・ソウルにある独立門についての対話文からの出題。

問４　中国とその周辺諸国との関係についての問い。基本的な内容である。

問５　韓国が独立した対象の国とハングルについての正誤の組合せを問うもの。空欄ウについては，独立門が建てられたのが1897年であることから，清からの独立であることを導いている。ハングルについては，教科書の注釈として掲載される程度の事項であるか，もしくは記載のない教科書が大半である。かなり細かい知識であり，妥当とは言えない。

問６　大韓帝国期における朝鮮半島でのできごとについての正誤問題。基礎的な内容である。

第２問　近現代における国のあり方について

Ａはアメリカ合衆国政府のエネルギー情報局長が発した巻頭言で，石油危機に直面したアメリカ合衆国の様子が読み取れる資料である。

問１　第四次中東戦争についての設問。1973年の中東情勢について述べていることと，その文章内容から「忘れられない事件」が第四次中東戦争にともなう世界的な経済的混乱を述べていることを導いている。誤答となる選択肢はいずれも中東戦争以外のことを論じたものであり容易に正答できる。難易度は平易である。

問２　1920年代における出来事について問うもの。基本的な内容である。

問３　1970年代以降におけるアメリカ合衆国についての正誤問題。難易度は平易である。しかし誤答の選択肢となる④の「金ぴか時代」は，言及のある教科書は二社のみ。また設問の文中にも誤答であると判別するに足る要素が乏しい。選択肢の内容の改善を求めたい。

Ｂはタイにおける地図とその歴史からの出題。全体として東南アジアの歴史的事象についてやや細かい知識を求めているが，問題の内容は妥当である。３種類のタイの地図が掲載され，資料を活用する技能も求めている。

問４　タイは古くから上座仏教を奉じていることと，その伝播のルートを問う設問。細かな知識を求めている。伝播については，図で掲載があるもの一社，本文欄外に注釈で記すものが二社で，触れてない教科書が大半である。正誤を判断することが困難であり，問題設定の妥当性を問いたい。

問５　タイ東部の植民地化を進めていた国である，フランスの対外進出の歴史を問うもの。基本的な内容であり，難易度も平易である。

問６　タイにおける地図とその歴史について，文章の読解力を問う設問。内容としては妥当であり難易度は平易である。

Ｃは映画「アンダーグラウンド」を鑑賞した生徒と先生の対話文からを出題。ユーゴスラヴィアとその周辺諸国との関係を，政治史を中心に問うている。難易度は平易であり，問題の内容も妥当である。

問７　第二次世界大戦期におけるヨーロッパにおける歴史的事象を問うもの。文章内容から容易に時期を特定することができ，難易度も平易である。

問８　いつの時代のユーゴスラヴィアについて述べているかを判断させ，空欄エに入る語句と，空欄オに入る文を選択させるもの。基本的な内容である。

問９　地図上から消えた国として，ロシア・プロイセン・オーストリアによるポーランド分割を答えさせる問い。基本的で平易な問題。

第３問　旅行の経験と歴史の学びついて

Ａはベンガル地方の歴史についての設問。近現代のインド史とベンガル地方の歴史変遷について，より深い学習と正確な知識を習得していることを求めている。やや難しいものもあるが，設問の設定は妥当である。

問１　ガンジス川にまつわる歴史的事象についての問い。文章の記述内容から，空欄アがガンジス川であると判断させているが，世界地図が頭に入っていることを求めている。基本的な内容で，難易度も平易である。

問２　インド総督カーゾンがベンガル分割令を発したことに対する，インド国内での対応を問うもの。基本的な内容で，設問の設定も妥当であるが，年代の近い事柄を誤答の選択肢としており，より深い学習と正確な知識を求めている。

問３　1947年のインド・パキスタン分離独立に際しての，東西ベンガルの分割について問うもの。世界史Ａで学習する事項としては，歴史的事象についてかなり踏み込んだ理解を求める難易度の高い設問である。

Ｂは大英博物館が所蔵するエルギン=マーブルに関する設問。

問４　オスマン帝国における19世紀のできごとを問うもの。空欄ウについて，文章の記述内容からオスマン帝国であることを導いている。選択肢の内容も妥当であり，難易度は平易である。

問５　バイロンの主張や行動の社会背景について，正文の組合せを問うもの。特定の人物の主張や行動の根拠を，当時の歴史的事象から考察する思考力・判断力・表現力等と，資料を活用する技能と読解力を問うている。学習指導要領世界史Ａの目標に合致した良問である。

問６　古代ギリシア・ローマの文化に関連した事象についての問い。正解となる②について，12世紀ルネサンスに触れていない教科書が大半。①ボッティチェリの『アテネの学堂』についてもルネサンスの個々の画家や作品についても同様である。一部の特定の教科書を使用している学習者のみが得点できるという点で，設問が妥当ではない。

Ｃは天安門広場と中国の歴史的変遷についての設問。

問７　1919年の五四運動の背景についての問い。メモ１の記述内容から五四運動のことを述べていると判断させている。選択肢も妥当なものであり，基本的な内容である。

問８　メモ２はプロレタリア文化大革命について述べたものであり，この時期の中国におけるできごとを問うもの。基本的な平易な問題である。

問９　改革開放政策を推進した鄧小平と，その政策内容の正しい組合せを問うもの。メモ３が示す時期が，経済発展に注力した時期であることを読解させ，正解を導いている。基本的な内容である。

第４問　歴史上の人やモノの移動

Ａはスエズ運河についての対話文からの出題。

問１　空欄アと空欄イに入る適語の組合せを問うもの。スエズ運河が，イギリスにとって植民地インドをつなぐ重要拠点であったことと，スエズ運河建設を開始した人物がレセップスであることを問う知識問題。基本的な内容。

問２　スエズ運河を通過したと考える事例を問うもの。日本史の知識とつなげて考察する力が問われた。発展的な知識を問う良問。

問３　ナセルによるエジプト革命，スエズ戦争（第二次中東戦争），パレスティナ解放機構（PLO）結成の年代整序。基本的な内容である。

Ｂは中国からの紅茶輸出についての文章とグラフからの出題。

問４　広州を舞台としたできごとを問う設問。文中に「ヨーロッパとの貿易が一港に限定」とあることから空欄ウが広州であることを導いている。広州が中華民国国民政府の拠点とされた地であるという知識を問うている。基本的な内容である。

問５　中国から各国への紅茶輸出量についてのグラフから適切な情報を読み取る力を問うている。同時代の世界と日本の歴史的事象を結び付けて考察する力も求められた。難易度は平易だが，基本的な知識を活用させる問題。

問６　1880年から1915年までにアフリカ大陸で起きたできごとを問う設問。基本的な内容である。

⑵　「世界史Ｂ」について

今年度の共通テストは，前年と比べて会話文や資料の分量が増加した。大問数と小問数は前年と変化はなかった。大問数と小問数および配点は，第１問が小問数６で配点16点，第２問が小問数６で配点18点，第３問が小問数８で配点24点，第４問が小問数８で配点24点，第５問が小問数６で配点18点であった。また，「世界史Ａ」との共通問題はなかった。

出題を正解の選択肢を基に判断し時代別に見ると，古代に関する出題が５問，中世に関する出題が11問，近世に関する出題が５問，近代に関する出題が６問，現代に関する出題が５問，複数にまたがる出題が２問であった。

地域別に見ると，アジア（東アジア・内陸アジア・南アジア・東南アジア・西アジア）アフリカに関する出題が12問，ヨーロッパ（西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア）に関する出題が19問，複数にまたがる出題が３問であった。

出題形式で見ると，肢文の中から正文を選ぶものが26問（誤文を選ぶ出題はなかった），複数事項組合せを選ぶものが６問，地図に関するものが１問であり，年代の配列に関するものが１問であった。全ての大問で史料文，地図，表，文献や図版などの資料が提示されていた。その中でも特に，図版や史料・グラフなどの内容を読み取って解答する問題は16問であった。問題作成方針にも明示されている，「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定としては，昨年度同様，授業の場面を設定した会話や対話の出題であった。これは，高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した，学習の過程を意識した問題の場面設定であると考えられる。

問題作成方針を踏まえ，特に出題教科・科目の問題作成の方針における⑵地理歴史「世界史Ａ」，「世界史Ｂ」，「日本史Ａ」，「日本史Ｂ」（以下「⑵地理歴史」という。）に明示されているように，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視し，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を測るために，①歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された問題であるか，②用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する問題であるか，③教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であるかどうか，④仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題であるかどうか，⑤歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題であるかどうか，といった観点から具体的に検討する。

第１問　「世界史の中の女性」

Ａは，各国の女性参政権獲得の歴史についての授業を基にした出題。

問１は，ロシアについての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問２は，第一次世界大戦についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問３は，ニュージーランド，イギリス，アメリカ合衆国における女性参政権についての正文を選択させる問題。ニュージーランドの女性参政権獲得については，問題作成方針の第２「出題教科・科目の出題方法，問題作成のねらい，範囲・内容等」に記載されている「高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし」から判断するとやや難しいと言えるが，その他の肢文から判断して，問題全体としては高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した標準的な知識を問う問題である。

Ｂは，「中国史の中の女性」をテーマにした議論の場面を基にした出題。

問４は，空欄 イ に入る語句を資料から読み取り選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における⑵地理歴史に明示されている，教科書等で扱われていない初見の資料ではあるが，資料の内容と授業で学んだ知識を関連付けて解答させる出題であり，高校での学習内容を踏まえた標準的な知識を問う問題である。

問５は，空欄 ウ に入る文を資料から読み取り選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における⑵地理歴史に明示されている，教科書等で扱われていない初見の資料ではあるが，資料の内容と授業で学んだ知識を関連付けて解答させる出題であり，高校での学習内容を踏まえた標準的な知識・理解を問う問題である。

問６は，６世紀後半以降の儒学についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

第２問　「世界史上の君主の地位の継承」

Ａは，フランス王家についての授業の場面を基にした出題。

問１は，文章と家系図を参考にフランス王家の紋章についての正文を選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における⑵地理歴史に明示されている，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する問題である。

問２は，ユグノーについての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問３は，文中の空欄 ア と空欄 イ にそれぞれ適語と文章を入れる組合せ問題で，標準的な知識を問う問題である。

Ｂは，ファーティマ朝のカリフについてその正当性を論じた文章を基にした出題

問４は，空欄 ウ に王朝（後ウマイヤ朝）を入れ，その王朝が10世紀に支配していた半島（イベリア半島）の歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問５は，カリフの歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問６は，資料１・２を参考にして，ファーティマ朝の歴史とそのカリフについての正文を選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における⑵地理歴史に明示されている，教科書等で扱われていない初見の資料ではあるが，資料の内容と授業で学んだ知識を関連付けて解答させる出題であり，高校での学習内容を踏まえた標準的な知識を問う問題である。

第３問　「世界史学習における疑問や議論」

Ａは，ナポレオン没後200年を記念した行事でのマクロン大統領の演説を基にした出題。

問１は，ナポレオンのエルバ島脱出を描いた図から，このときフランスを統治していた国王についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問２は，文章中の空欄 ア と空欄 イ に入れる地域の位置として正しいものを地図から選択させる問題で，基本的な知識と空間的な把握を問う良問である。

Ｂは，科挙に関する授業の場面を基にした出題。

問３は，朱子学についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問４は，空欄 エ に入れる文として正しいものを選択させる問題。東林派と非東林派の党争についての標準的な知識を問う問題である。

問５は，中国における科挙開始以前の人材登用制度についての二つの文と，朝鮮や日本で見られた人材登用制度に関する考えについて述べた二つの文の正誤の組合せ問題。標準的な知識を問う問題である。

Ｃは，中国における書籍分類の歴史についての大学生と教授の会話の場面を基にした出題。

問６は，空欄 オ に入れる語句と， オ を編纂した王朝についての述べた文との組合せ問題。標準的な知識を問う問題である。

問７は，『詩経』と『資治通鑑』が『漢書』芸文志の六芸略に掲載されているかどうか答える問題。『詩経』『資治通鑑』と『漢書』の発刊された時期を踏まえて考えさせる問題である。

問８は，文章を参考にして，中国における書籍分類の歴史についての正文を選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する問題である。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が終始された出題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

第４問　「世界史上の様々な歴史資料」

Ａは，貨幣１・２についての授業の場面を基にした出題。

問１は，貨幣１・２を発行した王朝についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問２は，貨幣１・２についての授業に内容を基に作成された３人のメモについて正しいものを選択させる問題。貨幣の表裏に何が描かれているか読み取り，文章の内容を踏まえてメモの正誤を判定する。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であり，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題である。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された出題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

Ｂは，資料を用いたギリシアの授業の場面を基にした出題。

問３は，空欄 ア に入れる語句と空欄 イ に入れる人物名の組合せ問題。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題であり，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された出題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

問４は，ペルシア戦争についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問５は，文章を参考にして，マラトンの戦いの勝利をアテネに伝えた使者についての正文を選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

Ｃは，ブリテン島の修道士ベーダが執筆した三つの資料を基にした出題。

問６は，空欄 エ に入れる語句と，資料１・２が示す「アングル人」について述べた文との

組合せ問題。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題である。

問７は，三つの資料に記されている出来事や事柄の年代を正しく配列する問題。標準的な知識を問う問題であり，資料の内容を正しく把握する必要がある。

問８は，キリスト教が社会に与えた影響についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

第５問　「歴史統計」

Ａは，東南アジアにおける四つの植民地の主要な輸出先とその比率の表を基にした出題。

問１は，マラヤの宗主国であるイギリスの歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問２は，空欄 ア に入れる国名と，統計が取られた時点で ア において，ゴムの需要が高まっていたことの背景について述べた文の組合せ問題。会話文の内容（４地域の中で宗主国がトップなのは一つだけです）から，空欄 ア にはアメリカ合衆国を入れ，ゴム需要が高まった背景としての正文を選択する。出題教科・科目の問題作成の方針に明示されているように，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であり，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察させたうえで基本的な知識と空間的な把握を問う良問である。

問３は，1929年当時の東南アジア各地の経済と貿易についての正文を選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

Ｂは，産業革命についての授業の場面を基にした出題。

問４は，空欄 イ と ウ に入れる文の組合せを，文章や表１・２の複数の資料から判断し正文の組合せを選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

問５は，空欄 エ に入れる文を文章とグラフから判断する問題。グラフの移民数の増減と年代からジャガイモ飢饉やゴールドラッシュ，フロンティアの消滅宣言などを類推し考察させる問題で，標準的な知識・理解を問う問題である。

問６は，産業革命についての正文を選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

３　総評・まとめ

⑴　「世界史Ａ」について

今年度の世界史Ａ（本試験）は，全体的に新課程での学びを意識した問題構成だった。対話文からの出題や図版とリード文の組合せからの出題が多くあり，単発の知識だけでなく，一歩踏み込んだ思考力・判断力を問おうとするものが随所に見て取れた。個々の問題は興味深く，受験者に気付きを与えるもので，設問内容については評価したい。

一方で，例年の懸念事項であるが，本年も特定の教科書にしか掲載・記載のない事項が出題されているものが散見された。世界史Ａは各学校，教科書を軸として授業を進めるため，いずれの教科書で学習を進めたとしても対応できうる問題設定でなくては平等性に欠ける。特に「世界史Ａ」の教科書においては，図版の掲載はあまり多くなく，特に文化史の取り扱いに差が出やすい。この点に関しては，改めて精査して問題を作成していただきたい。

⑵　「世界史Ｂ」について

公表された今年度の平均点をみると，「世界史Ｂ」は昨年から7.4点下がり，「日本史Ｂ」「地理Ｂ」と同水準になった。「世界史Ｂ」の平均点については，試験の制度設計や問題作成方針，また他の地理歴史との兼ね合いを考えれば予想しうるものであり，今年度については妥当であると考える。

出題構成や大問数，設問数，リード文におけるテーマ性の工夫や，歴史を学ぶ意義を考えさせるメッセージ性など，昨年度と同様の出題形式であった。また，学習指導要領に準拠し，その趣旨を反映した基礎学力を問うための出題であった。全ての大問で史資料の読解問題が出題された。令和７年度以降，共通テストでは「歴史総合，世界史探究」が出題科目となる。多様な資料，図版，図表，データ，場面設定などを組合せた出題方式を来年度以降も続けて欲しい。また，今年度も従来のセンター試験に見られた「基礎的な知識及び技能」のみで解答できる４択の選択問題も出題された。これは問題作成方針の第１「問題作成の基本的な考え方」に記載されている「平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「高等学校学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。」の部分から考えても，受験者の高等学校における学習活動や成果が評価されるべき共通テスト入試においては，思考力・判断力を測る設問も当然重要であるが，その前提となる知識を測る問題も重要であるためその出題は妥当である。問題の配分が学習指導要領や教科書の内容に沿っており，高校の現場における「世界史Ｂ」の授業における時間配分が十分配慮された出題であった。高等学校で学習した内容をしっかりと理解している受験者が正答できる良問が多く，全体を通じて，非常にバランスの取れた出題であったと考えられる。

一方で，センター試験から共通テストへの移行に伴い，問題文の分量が大幅に増加した。2020年度のセンター試験本試験の「世界史Ｂ」が約9,300字なのに対し，2021年度の共通テスト本試験の「世界史Ｂ」が約14,500字，2022年度の共通テスト本試験の「世界史Ｂ」が約12,600字，2023年度の共通テスト本試験の「世界史Ｂ」が約17,400字である。400字詰め原稿用紙44枚に相当する量の問題文を読み，「知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力等を発揮して解くことが求められる問題」を34問解くことに対して，60分という試験時間がはたして妥当であるのだろうか。実際，本稿の作成にあたって問題分析を行った教員に確認したところ，問題を解くのに約40分かかったという回答が大半であった。教員が解答するのに40分を要する問題を，受験者に対して60分で課すことは妥当なのだろうか。不適切に多い問題の分量は，「思考力，判断力，表現力等を発揮」することを阻害し，単に速読・即解力を問う問題に堕してしまうのではないか，作問者の見解を伺いたい。前述したように，個々の問題や問題の配分は学習指導要領や教科書の内容に沿っており，高校の現場における「世界史Ｂ」の授業における時間配分が十分配慮された出題であった。また，高等学校で学習した内容をしっかりと理解している受験者が正答できる良問が多く，全体を通じて，非常にバランスの取れた出題であっただけに残念である。

最後に，問題作成にご尽力なされた方々に，感謝申し上げたい。

４　今後の共通テストへの要望

「世界史Ａ」「世界史Ｂ」としての出題はあと１年となった。２年後には新学習指導要領の下で「歴史総合，世界史探究」として出題されることになる。「歴史総合」の教科書をみると，「世界史Ａ」の教科書以上に記述内容の差が大きい。「世界史探究」の教科書については，従来の「世界史Ｂ」と同様な内容量であるが，「世界史Ａ」にみられたような，学んだ教科書によって有利・不利が生じる

ような作問は避けていただきたい。そのような意味においても，高校での学習内容とリード文の読み取りを組合せた問題が増えていることに期待を持っている。と同時に，適切な問題量についても十分なご配慮をお願いしたい。